

# 偽審判者としての Ishmael Bush

肴 倉 宏

## Ishmael Bush as a False Judge

Hiroshi Sakanakura

### 抄 録

光と闇は、*The Prairie* を構成する重要な要素であるだけでなく作品のテーマを支える重要な意味も与えられている。光と闇は、それぞれ、善と悪を象徴的に示している。Ishmael Bush は、悪に触まれた人物として描かれている。彼は、物語の中で偽審判者の役割を果たしている。彼が偽審判者になった原因は、魂の再生を体験していないからである。

**キーワード：**ジェームズ・フェニモア・クーパー、「大草原」、イシュマエル・ブッシュ  
(2000年8月31日 受理)

### Abstract

The contrast between light and darkness constitutes both structural and thematic frames of *The Prairie*. Light symbolizes good while darkness symbolizes evil. Ishmael Bush is described to be a person possessed by evil. He plays the role of a false judge in the narrative. The underlying cause is to be sought in the fact that Ishmael Bush has no regenerative experience.

**Key words:** James Fenimore Cooper, *The Prairie*, Ishmael Bush

(Received August 31, 2000)

John P. McWilliams, Jr. は、James Fenimore Cooper の作品 *The Prairie* (1827) に描かれている Ishmael Bush を Natty Bumppo より高く評価している。彼は、次のように述べている。

It is Ishmael Bush, not Natty Bumppo, who restores social order at the end of *The Prairie*. Because Ishmael belongs to society, even in its lowest form, he can bring rudimentary forms of civil justice to the barbarous wilderness.<sup>(1)</sup>

McWilliams は、Ishmael Bush が物語の最後で荒野に正義をもたらす社会秩序を回復しているから Natty Bumppo より重要なのだという。

しかし、光と闇から構成された舞台の中で *The Prairie* の Ishmael Bush を捉え直してみるとどうなるであろうか。光と闇から構成された舞台の中で捉え直してみると、Ishmael Bush は、象徴的な意味を与えられた新しい人間像として浮かび上がってくるように思えるのである。そして作品を構成する舞台は、重要な意味を持つてくるように思えるのである。

光は、作品 *The Prairie* の舞台を構成する重要な要素となっている。Cooper は、物語の第1章と最終章の第34章で夜の闇が訪れる直前に燃えるように輝いている夕陽を描いた。このようにして、彼は *The Prairie* の物語を光の枠組の中に置いているのである。しかし、この作品で光が果たす役割は、作品を構成する要素として重要であるだけでない。それは、作品のテーマを支える重要な意味をも与えられている。Cooper は、夕日に示される光が象徴的な意味を持っていることを示そうとしたのである。第1章で Cooper は、夕日の場面を次のように描いている。

The sun had fallen below the crest of the nearest wave of the Prairie, leaving the usual rich and glowing train on its track. In the centre of this flood of fiery light a human form appeared, drawn against the gilded background, as distinctly, and seemingly as palpable, as though it would come within the grasp of any extended hand. The figure was colossal; the attitude musing and melancholy, and the situation directly in the route of the travellers. But embedded, as it was, in its setting of garish light, it was impossible to distinguish its just proportions or true character. (14–15)<sup>(2)</sup>

Natty Bumppo は、小高い丘の上に立って燃えるように輝いている夕日を満身に浴びている。この場面にやってきた Ishmael Bush は、Natty Bumppo を照らし出している夕日の背後に自然現象を越えた宗教的な意味を読み取ったのであろうか、一瞬、“superstitious awe” (15) に打たれて立ち止まってしまうのである。Cooper の作品における光の使い方に関心を寄せている Donald A. Ringe は、*The Prairie* の冒頭の夕日の場面に注目して “the light ... surrounds the trapper with a halo of light, and in effect, almost sanctifies him.”<sup>(3)</sup> と述べている。冒頭の夕日は、宗教的な意味が込められていると Ringe は指摘しているのである。

光に与えられた象徴的な意味は、最終章の第34章でさらに強調されている。死を目前にしている Natty Bumppo が、Duncan Uncas Middleton, Paul Hover, Pawnee 族の Hard-Heart

たちに囲まれて夕日を見つめている。Cooper は、その様子を次のように描いている。

The trapper had remained nearly motionless for an hour. His eyes, alone, had occasionally opened and shut. When opened his gaze seemed fastened on the clouds which hung around the western horizon, reflecting the bright colours and giving form and loveliness to the glorious tints of an American sunset. The hour—the calm beauty of the season—the occasion all conspired to fill the spectators with solemn awe. (385)

夕日が放つ光は、ここでは、Natty Bumppo をはじめとして夕日を見つめているものたちの心に畏敬の念を呼び起こしている。そして、それから間もなく、Natty Bumppo は両側を支えられながら立ち上がり、“with a fine military elevation of the head, and with a voice that might be heard in every part of that numerous assembly” (385) と描かれているように姿勢を正し大きな声で “Here!” (385) と応答している。夕日に示された光は、人間の全身全霊を持って応答しなければならない神的存在を象徴的に示しているのである。

Cooper は、*The Prairie* の第 1 章と最終章で栄光に輝く夕日を描いた。そうすることによって、彼はこの作品を包む枠組みを作り上げた。しかも、作品を包む枠としての光は、夕日が織り成す色彩的な美しさを強調するためではなく、明らかに神的な意味を帯びる象徴性を与えられているのである。

*The Prairie* の舞台を構成するもう一つの重要な要素は、闇なのである。Cooper は、物語の冒頭の夕日の場面に続いて、すなわち第 1 章後半から第 6 章にかけて闇の場面を描いた。闇は、光と同様に作品のテーマを支える重要な意味を与えられている。Cooper は、闇に与えられている意味を Sioues 族を通して示している。“the Ishmaelites of the American deserts” (40) と描かれている Sioues 族は、Natty Bumppo に “the miscreants!” (37) や “the thieves” (38) と言われている。彼等は、倫理的に腐敗している連中なのである。Cooper は、夜陰に紛れて獲物を求めて徘徊している Sioues 族を “A band of beings, who resembled demons rather than men sporting in their nightly revels across the bleak plain” (37) と述べている。Sioues 族は、人間というより悪魔に似ているというのである。このような連中を包み隠す闇は、悪の跳梁を許す象徴的な意味を与えられているのである。

闇に与えられている意味は、Sioues 族の族長 Mahtoree を通して一層強調されている。Cooper は、Mahtoree を描くとき蛇のイメージをふんだんに用いている。たとえば、略奪を企む Mahtoree が Ishmael Bush 一家のキャンプに忍び込む様子は、次のように描かれている。

The progress of Mahtoree was now slow, and to one less accustomed to such a species of exercise, it would have proved painfully laborious. But the advance of the wily snake itself is not more certain or noiseless, than was his approach. (50)

Mahtoree は、ずる賢い蛇が音もたてず確実に獲物に近づくよりも巧妙に Ishmael のキャンプに忍び込むのだ。彼は、Ishmael Bush 一家の一人一人の顔を覗き込み寝静まっていることを確かめたうえで、キャンプの中を歩き回る。Cooper は、Mahtoree の様子を “he stalked through the encampment, like the master of evil, seeking whom and what he should

first devote to fell purposes.” (53)と描いている。残虐な目的を遂げるための犠牲者を探している Mahtoree は、悪の化身なのである。Mahtoree の暗躍を許す闇は、倫理的腐敗を隠し悪の跳梁する象徴的な意味を与えられているのである。

Cooper は、まず初めに物語の舞台を設定した。彼は、象徴的な意味を帯びる光を物語の枠組として設定している。神的な意味を与えられた光の枠組みは、その中に倫理的な腐敗を隠し悪の跳梁する恐ろしい闇を包み込んでしまうものなのである。このように Cooper が *The Prairie* の冒頭で見せる光の舞台は、これから繰り上げられる事柄に関する問題の中心が、光か闇に深い関わりを持つ問題であることを予表しているのである。冒頭の光の場面は、光が象徴的に表すものを信じるか、それとも闇の世界にとどまるかという倫理的な問題が、*The Prairie* の中心課題であることを暗示しているのである。

Ishmael Bush が、光と闇から構成されている *The Prairie* の舞台に登場する。彼は、第1章から登場する。Ishmael は、家族を連れて Kentucky 州から Mississippi 河を越えて大草原にやってきたのである。彼等は、ちょうど大草原に着いたとき小高い丘の上になって燃えるように輝いている夕日を満身に浴びている。Natty Bumppo を見て “superstitious awe” (15) に打たれ立ち止まってしまうのである。しかし、このことから、Ishmael Bush 一家が燃えるように輝いている夕日に宗教的な意味を読み取っていると判断することはできない。

Ishmael Bush の光に対する姿勢は、幌馬車を通して描かれている。彼は、何台かの荷馬車に家財道具を積んできたのだけれども二台目の馬車だけは幌がかけられている。Cooper は、二台目の馬車を “The second vehicle was covered with a top of cloth so tightly drawn, as to conceal its contents, with the nicest care.” (13) と描写し読者の注意を引き付ける。二台目の馬車だけは、中身が見えないように細心の注意を払って幌がかけられているのである。Ishmael Bush は、大草原に来る途中で立ち寄った Louisiana でその有力者 Don Augustin de Certavallos の娘で Duncan Uncas Middleton の新妻である Inez を誘拐し幌馬車に隠しているのである。彼は、Abiram White にそそのかされて身代金を取る目的で Inez を誘拐したのである。しかも彼は、家族の他のものには大草原で “a decoy” (92) として使う動物を積んでいると信じ込ませている。Ishmael が Inez を幌馬車の中に隠していることは、Ishmael の腐敗した人間性を隠すことなのである。Ishmael は、家族からだけでなく象徴的な意味を与えられた光からも自分の倫理的な墮落を覆い隠そうとする。Ishmael Bush は、倫理的腐敗を隠し悪の跳梁を許す闇の側にいる人物なのである。

Ishmael Bush が闇の側にいることは、彼と Mahtoree との関係を通してさらに強調されている。Mahtoree は、悪の化身として描かれていた。Ishmael は、Mahtoree に自分の馬や家畜を奪われたときは憎しみから復讐を誓う。しかし彼は、Natty Bumppo をはじめ Middleton や Paul Hover たちが Inez や Ellen Wade を解放したときは彼等を捕らえるため Mahtoree と同盟を組む。Natty Bumppo は、Ishmael と Mahtoree が手を組んだことを Hard-Heart の話から知るのである。彼は、Hard-Heart から聞いたことを Middleton や Paul に次のように話す。

But he tells me more, my men, and what I am mainly sorry to hear, which is, that the cunning Mahtoree, instead of going to blows with the squatter has become his friend, and that both broods, red and white, are on our heels, and outlying around this very burning plain to circumvent us to our destruction. (259)

Natty Bumppo は、Ishmael と Mahtoree が手を組んだというのである。Ishmael は、目的のためには悪にさえ自分の魂を売る節操のない男である。Ishmael は、悪の化身 Mahtoree に人間性を蝕まれ倫理的に荒廃しているのである。

Ishmael Bush の倫理的に荒廃した姿は、第 8 章の場面を通して具体的に描かれている。彼は、この場面で再び Siouzes 族に襲撃されても持ちこたえられるようにキャンプを小高い丘の上に移動させそこに砦を築いている。砦の一番上のところにテントを張り、Ishmael はその中に Inez を隠している。ところがテントがはためき、Inez が外に現れようとしている。Inez が現れることは、Ishmael の倫理的腐敗を白日のもとにさらけ出すことになるのである。自分の倫理的腐敗を知られたくない Ishmael は、Inez を外に出さないようテントのそばにいる Ellen Wade に警告するが、口で言っても効き目が無いので Ellen に鉄砲を撃つ。Ishmael のこの無謀な行為を見た Asa は、“What has Ellen done, Father ... that she should be shot at, like a stragglng deer or a hungry wolf!” (90) と言って父を非難する。Asa に対して Ishmael は、“mischief, boy; mischief. Take you heed, that the disorder dont spread.” (90) と言う。Ishmael は、Ellen が命令に従わなかったことを非難すると同時に彼女を弁護して父に反抗的な態度を取る Asa を威圧する。実際、Ishmael は、“strength of the elephant” (12) を背景に父親の権威をちらつかせて “Asa, you ar’ a man, as you have often boasted; but, remember I am your Father, and your better.” (90) と Asa にいう。Ishmael は、子供たちを人間扱いせず動物のようにみなしている。しかも彼は、父親の権威や命令に対する絶対的服従を子供達に要求する。Ishmael Bush は、子供たちを対等な人間とみなさず愛情も示さない家父長的権威主義の体現者なのである。

子供たちを抑圧する Ishmael Bush は、家族を悲劇的な結末に導くのである。Inez がテントの外に現れると、Ishmael と Asa の対立から Asa と Abiram の対立へと移る。父親に威圧された Asa は、“the rankling impulse of the recent quarrel” (92) を感じながらも “Instead ... of braving the resentment of his father” (92) と描かれているように父親の怒りを恐れて Abiram にはけ口を求めて不満をぶつける。Asa は、Abiram を “The news-paper of Kentucky have called you a dealer in black flesh, a hundred times, but little did they reckon that you drove the trade into white families.” (92) と言う。Asa は、奴隷商人の Abiram が白人まで誘拐したと非難する。Asa に対して、Abiram は、次のように言い返す。

Who is a kidnapper! ... Look to your own family, boy; look to yourselves. The very stumps, of Kentucky and Tennessee, cry out ag’in ye! Ay, my tonguey gentleman, I have seen, Father and Mother, and three children, yourself for one, published on the logs and stubs of the settlements with dollars enough for reward to have made an honest man rich, for—  
(92)

Abiram は、おまえたちも多額の賞金をかけられているお尋ね者じゃないかと Asa に応酬する。彼は、Ishmael Bush 一家が他人の所有地を不法に占拠し彼等を追い立てようとした“the sheriff's deputy” (58)を射殺したことを指摘しているのである。一族を侮辱されたと感じる Asa は、Abiram を殴りつける。Abiram は、Asa に叩かれたことを根に持ち狩りにでかけたとき報復として背後から射殺するのである。Abiram による Asa 殺しの原因は、家父長的権威主義の体现者 Ishmael の子供たちに対する姿勢にある。子供たちは、Asa を死に追い込んだ父親 Ishmael に恐怖感を持つのである。実際、Cooper は、子供たちの目に映った Ishmael の姿を次のように描写している。

There were, faint and indistinct images in the minds of two or three of the oldest, which portrayed the father, himself, as ready to imitate the example of Abraham, without the justification of the sacred authority, which commanded the holy man to attempt the revolting office. (143)

子供たちは、Ishmael を神から認められるだけの権威を持たないアブラハムにたとえている。Ishmael と Asa の関係に示されているように愛の無い命令と服従の親子関係は、恐怖政治に過ぎないものと子供たちの目に映っているのである。倫理的に腐敗している Ishmael Bush は、家族を分裂させる原因を作っているのである。

Ishmael Bush は、倫理的に腐敗しているだけではない。彼は、判断力を持たない男としても描かれている。Cooper は、Ishmael を次のように描写している。

He was tall, sun-burnt man, past the middle age, of a dull countenance and listless manner. His frame appeared loose and flexible ; but it was vast, and in reality of prodigious power....The inferior lineaments of his countenance were coarse, extended and vacant ; while the superior, or those nobler parts which are thought to affect the intellectual being, were low, receding and mean. (12)

Ishmael は、図体は大きくけた外れの力を秘めているが、体と対照的に知的部分のある頭は後退していてみすばらしいのである。このような Ishmael は、“incapable of maturing any connected system of forethought, beyond that which related to the interests of the present moment” (14)と描かれているように目前のことは考えられるが、先々の見通しを立てることができないのである。知的判断能力を欠いている Ishmael は、しばしば“overfatted beast” (14)、“a well fed and fattened ox” (122)、“an awakened lion” (145)と動物のイメージで描かれている。Ishmael Bush は、倫理的に腐敗しているだけでなく、知的判断力を欠いた動物的な男でもある。こうして Cooper は、Ishmael Bush が審判者の役割を果たすにはふさわしくない人物であることを暗示している。

Ishmael Bush は、物語の第31章で裁判官の役割をする。Ishmael は、Middleton と Inez, Paul と Ellen そして Obed Battius や Natty Bumppo たちを前に“I am called upon, this day, to fill the office, which in the settlements you give unto judges who are set apart to decide on matters that arise between man and man.” (343)と宣言する。そして彼は、判断基準として“an eye must be returned for an eye and a tooth for a tooth” (343)という同質同量の復

警法を用いるという。自分の役割と判断基準を示したうえで彼は、最初に Middleton を裁くのである。彼は、Middleton に次のように言う。

As to ourselves, young Captain, there has been wrong on both sides. If I have borne hard upon your feelings, in taking away your wife, with an honest intention of giving her back to you when the plans of that devil incarnate were answered, so have you broken into my encampment, aiding and abetting, as they have called many an honest bargain, in destroying my property. (345)

Ishmael は、Inez を誘拐して Middleton に辛い思いをさせたと言う。一見すると、彼は、自分の犯した過ちを反省しているように思える。しかし、すぐに、彼は、Middleton の非をあげつらう。Ishmael は、キャンプに侵入し家財道具を破壊したと Middleton の非を非難する。そして Ishmael は、自分も Middleton も過ちを犯したのでおあいこだと言うのである。彼は、自分の倫理的腐敗を復讐法を用いて隠蔽しようとしているのである。Ishmael に家財道具を破壊されたと非難された Middleton は、“But what I did, was to liberate —” (345) と言って Inez を解放するための正当な行動であると抗議する。しかし、Ishmael は、Middleton の抗議を途中で遮り、一方的に “The matter is settled between us.” (345) と Middleton に言い渡す。独断的に判決を下す Ishmael は “arbitrary judge” (342) と描かれている。自分の倫理的腐敗を自覚せずしかも復讐法を用いて自分の不正な行為を正当化しようと腐心する Ishmael は、身勝手に傲慢な裁判官なのである。

ところで、第31章の裁判の場面で見落としてはならない重要なことは、Hard-Heart の存在である。Hard-Heart は、復活のメシヤであると同時に最後の審判のときの審判者として描かれている。メシヤ Hard-Heart が臨んで行われる第31章の裁判は、すべての人の宗教的・倫理的行いが裁かれる最後の審判を象徴的に描いているのである。<sup>(4)</sup> しかし宗教的な意味を与えられた光から自己の倫理的腐敗を隠そうとしてきた Ishmael は、Hard-Heart に与えられている象徴性を理解できないのである。彼は、自分が審判者としての Hard-Heart の前に立っていることに気がついていない。実際、Cooper は、Ishmael の Hard-Heart に対する態度を次のように表現している。

Ishmael had received his new ally with a coldness that showed his entire insensibility to that delicacy, which had induced the young chief alone, in order that the presence of his warriors might not create uneasiness, or distrust. He neither courted their assistance, nor dreaded their enmity, and he now proceeded to the business of the hour, with as much as composure as if the species of patriarchal power he wielded was universally recognized. (342—343)

Ishmael Bush は、Hard-Heart に冷ややかな態度を取っている。そのうえ、彼は裁判官としての権威が Hard-Heart にも認められたものと錯覚している。彼は、Hard-Heart を復活のメシヤであると同時に最後の審判のときの審判者として認識していないのである。Hard-Heart の象徴性を理解できないままに Ishmael は、Middleton をはじめ Natty Bumppo たちを裁こうとする。審判者としての倫理的にも知的にもふさわしくないままに Ishmael は、

Hard-Heart の前で審判者のごとく振る舞うのである。彼は、自己の倫理的腐敗を自覚せずしかも法を用いて自己正当化することに腐心していた。メシヤ Hard-Heart の前で明らかにされたことは、皮肉にも Ishmael の倫理的に荒廃した姿なのである。Ishmael は、メシヤ Hard-Heart に裁かれているのである。

批評家たちは、Ishmael について論じている。John P. McWilliams, Jr. は、Ishmael Bush が荒野に正義をもたらす社会秩序を回復していると述べていた。しかし審判者のごとく振る舞う Ishmael が、メシヤ Hard-Heart に裁かれているのである。Ishmael は、正義を行うどころか正義を歪曲していると解釈すべきであろう。William Wasserstrom は、第32章で Abiram を処刑した Ishmael について次のように述べている。

Having offered in sacrifice that part of himself, as we may say, which is guilty, Ishmael announces his own guilt, participates in Abiram's agony, achieves expiation and is re-born.<sup>(5)</sup>

Wasserstrom は、Abiram の処刑は Ishmael の悪の部分を生贄にしたことを表し、それによって罪の償いをして生まれ変わったのだという。James Emmet Long も同様の解釈をしている。彼は次のように述べている。

Through Abiram, the consciousness of guilt, of evil in himself, and of the need for purgation breaks upon Ishmael's dull mind, moving him toward a kind of religious awakening.<sup>(6)</sup>

Long は、Ishmael Bush が罪の意識に目覚めたという。Wasserstrom も Long もともに Ishmael が宗教的な回心の体験をしているという。しかし、Ishmael は、Hard-Heart の象徴性を理解できなかった。そのうえ彼は、審判者の役割を果たそうとして Hard-Heart に裁かれている。Abiram の処刑が描かれている第32章は、荒涼とした闇の場面である。メシヤ Hard-Heart に裁かれた Ishmael Bush は、倫理的な腐敗を隠し悪の跳梁する闇の中にとどまり象徴的な意味を与えられた光の世界へと踏み出すことがないのである。Ishmael は、偽審判者なのである。

Ishmael Bush が偽審判者になってしまった原因をさらに究明するためには、少し視点を変えて Ishmael Bush の Natty Bumppo に対する姿勢に目を向ける必要がある。Natty Bumppo は、*The Prairie* では毘師として描かれている。毘師は、高齢になり体力の衰えた Natty Bumppo の生計を支える職業であるばかりではなく、象徴的な意味も与えられている。Natty Bumppo は、メシヤ Uncas と Hard-Heart の死と復活について語る伝道者であるばかりか聖餐式の司式者としても描かれている。<sup>(7)</sup> 彼は、Chingachgook と Uncas の係わりに描かれた愛する独り子を犠牲にしてまで人間を救おうとする神の愛、Hard-Heart の復活にみられる死からでさえ生を造り出す神の豊かな創造力そして終末の接近について語り、荒野であった人々や老犬の Hector を聖餐式に招くのである。<sup>(8)</sup> 彼は、神や人間そして自然との交わりを深める宗教的な人物なのである。このような Natty Bumppo に対する Ishmael Bush の態度は、Ishmael Bush の宗教的な真理に対する姿勢を示すことになるのである。

Ishmael Bush が Natty Bumppo をどのように理解しているかは、二人の会話を通して浮かびあがる。Ishmael Bush と Natty Bumppo の対話に耳を傾けてみる。Ishmael は、最初、Natty Bumppo を大草原に前から住んでいる “an old settler” (12) と考える。Natty Bumppo がそれを否定すると、彼は “A hunter, I reckon?” (21) と言う。彼は、開拓者でなければ猟師だと考えたのだ。Natty Bumppo は、“You are mistaken, friend, in calling me a hunter; I am nothing better than a trapper.” (22) と Ishmael に答える。Natty Bumppo は、猟師ではなく、罾師だと主張するのである。Natty Bumppo のこの返答を聞いた Ishmael は、“If you ar’ much of the one, I’m bold to say you ar’ something of the other; for the two callings go mainly together, in these districts.” (22) と言り返す。Ishmael は、猟師でも罾師でも一緒だと言う。彼は、猟師であれ罾師であれ獲物を捕る職業には変わりはないというのである。彼は、Natty Bumppo をメシヤ Uncas と Hard-Heart の死と復活について語る伝道者にして聖餐式の司式者として理解できないのである。Ishmael Bush は、Natty Bumppo に与えられている象徴性を理解できない。

Ishmael Bush は、Natty Bumppo の象徴性を理解できないだけではない。彼は、Natty Bumppo に敵意さえ表すようになる。Ishmael は、大草原に着いた夜に Siouxes 族に襲撃され家畜を奪われる。彼は、Siouxes 族の襲撃に Natty Bumppo が絡んでいると疑うのである。そして彼は、Natty Bumppo に “Old man, you have brought this tribe of red devils upon us, and tomorrow you will be sharing the booty.” (60) と言う。Natty Bumppo が Siouxes 族の仲間だろうという印象は、Ishmael の頭からなかなか離れない。Natty Bumppo に対する Ishmael の不信感をあからさまな敵意に変えていくのは、Abiram である。Abiram が Natty Bumppo を “our mortal enemy” (134) と呼ぶのを聞きその直後に Asa の死体を発見すると、Ishmael は Natty Bumppo を Asa 殺しの犯人と思いこむ。Abiram に比べ頭の回転が鈍い Ishmael は、Abiram の与えた印象を修正できず物語の第31章に至るまで激しい敵意を Natty Bumppo に燃やし続け無実の Natty Bumppo を裁こうとするのである。Natty Bumppo に敵意を抱く Ishmael は、Natty Bumppo の語るメシヤ Uncas と Hard-Heart の死と復活の話に耳を傾けることはない。ましてや、彼は、Natty Bumppo が荒野で執り行う聖餐式に加わることもない。Ishmael Bush は、Natty Bumppo の語る宗教的真理を受け入れようとしないのである。

宗教的真理を受容しない Ishmael Bush は、人間関係に歪みをもたらす。彼は、Ellen を “a stragglng deer or a hungry wolf” (90) の様にみなし鉄砲を撃っていたし、長男の Asa を “one of ... meanest cattle” (90) の様に扱っていた。家族を非人間的に扱う Ishmael の家長的権威主義的な姿勢は、Abiram による Asa 殺しを招いていた。Ishmael は、自分の子供を抑圧するだけでなくインディアンをも一段と低いものと蔑んでいる。実際、彼は、“I made a forage or two among the Cherokees when I was a lad myself; and I followed Mad Anthony one season, through the beeches” (63) と言っている。彼は、インディアンの討伐作戦に参加したことやインディアン嫌いと言われた Mad Anthony の部下だったことを得意になって話す。インディアンに偏見を持つ Ishmael は、インディアンの土地を所有する

権利を認めようとしな。Natty Bumppo が “The Teton and the Pawnee and the Konza, and men of a dozen other tribes claim to own these naked fields.” (78) と言ってインディアンの権利を弁護すると、Ishmael は、“Natur gives them the lie, in their teeth.” (78) と言ってインディアンの権利を真っ向から否定する。Ishmael Bush は、自己中心的な男なのである。

宗教的な真理を受容しない Ishmael Bush は、人間関係だけでなく自然との関係を歪めてしまう。彼は、Natty Bumppo の老犬を見て、“Your hound is old, stranger, and a rap on the head would prove a mercy to the beast.” (75) と言う。Hector は、人間を除いた神の被造物を象徴する代表として描かれている。<sup>(9)</sup> 象徴的な意味を与えられている Hector に向けた無慈悲な Ishmael の言葉は、彼の動物や植物に対する姿勢を物語る。彼は、自然を搾取するけれど自然に暖かい配慮を示す責務を果たさないのである。実際、彼は、Natty Bumppo からキャンプにふさわしい場所を聞き出すと子供たちに命じて刃りに生えている木を切り倒させている。Cooper は、その様子を “they stripped a small but suitable spot of its burthen of forest, as if a whirlwind had passed along the place.” (19) と描写している。Ishmael Bush 一家がキャンプを撤収した跡は、“the desolation of the scene” (83) と述べられているように自然破壊によってもたらされた荒涼とした光景なのである。Natty Bumppo は、荒涼とした光景を目の前にして “This is man’s wish, and pride, and waste, and sinfulness.” (83) と嘆いている。宗教的な真理を受け入れない Ishmael Bush は、人間関係においても自然の関係においても破壊的な影響を及ぼしている。

宗教的な真理を受け入れない Ishmael Bush を考えるとき見落としはならない重要なことは、物語の時代背景である。Cooper の *The Prairie* は、1805年に設定されている。設定された時代のわずか数年前の1801年に Kentucky 州 Bourbon Country の Cane Ridge でアメリカの教会史の上で特筆すべきことが起こっているのである。Sydney E. Ahlstrom は、Cane Ridge での出来事について次のように述べている。

The most important fact about Cane Ridge is that it was an unforgettable revival of revivalism, at a strategic time and a place where it could become both symbol and impetus for the century-long process by which the greater part of American evangelical Protestantism became “revivalized.” The organized revival became a major mode of church expansion—in some denominations the major mode. The words evangelist and evangelism took on this connotation. A second consequence of this historic camp meeting and the great revival which swept across Kentucky, Tennessee, and southern Ohio during the next three years was the vitality which it poured into the participating churches. The future of the country’s denominational expansion was in large part determined by the foundations laid during this period. <sup>(10)</sup>

Ahlstrom は、1801年の Cane Ridge での「信仰復興運動」が近隣の州に広まっただけでなくほぼ一世紀にわたってアメリカのキリスト教を活性化するきっかけになったという。Kentucky 州 Cane Ridge での「信仰復興運動」が、第二回目の「大覚醒運動」の先駆けに

なったのである。

Ishmael Bush は、Kentucky 州出身である。彼は、自分の故郷である Kentucky 州や近隣の州に広まった「信仰復興運動」にどのような態度をとったのであろうか。Abiram と Ishmael の話に耳を傾けてみることにする。Abiram は、巡回牧師の説教を聞いたことがあるという。そして彼は、その話を Ishmael に次の様にいう。

... Neither you nor I, will ever be the better for what we have done, unless we thoroughly finish what is so well begun. Ay, that is the doctrine of the whole world, I judge: I heard a travelling Preacher, who was skirting it down the Ohio, a time since, say if a man should live up to the faith, for a hundred years, and then fall from his work a single day, he would find the settlement was to be made for the finishing blow that he had put to his job, and that all the bad and none of the good would come into the final account. (87)

Abiram は、牧師が信仰にいきるよう奨励していたという。Ishmael は、Abiram の言葉を聞くと、“And you believed the hungry hypocrite?” (87) と言って冷やかす。Ishmael の冷やかしに対して Abiram は、次のように答えている。

Who said that I believed it! ... Is it believing to tell what a roguish—and yet Ishmael, the man might have been honest after all. He told us that the world was, in truth, no better than a desert, and that there was but one hand that could lead the most learned man through all its crooked windings. Now, if this be true of the whole, it may be true of a part. (87)

Abiram は、倫理的に不毛な世界の中でイエス・キリストだけが人を導くことができるという話を巡回牧師から聞いたという。彼は、Ishmael よりはキリスト教の中心的な教義を理解するだけの頭脳を持っている。けれども彼は、自分の奴隷商人としての生き方を悔い改めていない。それどころか、彼は、Inez を誘拐し幌馬車に隠しているのである。Ishmael は、牧師を偽善者にすぎないと決めつけ牧師の話聞いた Abiram を冷やかす始末である。Ishmael Bush は、Kentucky 州の「信仰復興運動」のことは知っているのだけれども自分たちの生き方を悔い改め魂の再生を得る機会を失っているのである。このような Ishmael Bush が Natty Bumppo の象徴性を理解し彼の語るメシヤ Uncas と Hard-Heart の死と復活の物語に聞き入るのは、至難の業であろう。Ishmael は、魂の再生の体験をしていないのである。Ishmael Bush が偽審判者になってしまった原因は、魂の再生を体験していないことにある。

## 注

- (1) John P. McWilliams, Jr. *Political Justice in a Republic: James Fenimore Cooper's America* (Berkeley: University of California Press, 1972) 268
- (2) James Fenimore Cooper *The Prairie; A Tale* (Albany: State University of New York Press, 1985) 本論文中の作品からの引用は、全てこの版による。なお、( ) ないの数字は、そのページを示す。

- (3) Donald A. Ringe *The Pictorial Mode: Space and Time in the Art of Bryant, Irving and Cooper* (Lexington: The University of Kentucky, 1971) 109
- (4) 拙論「荒野における聖餐式」大阪女学院短期大学紀要第28号(1998) 115-127
- (5) William Wasserstrom "Cooper, Freud and The Origin of Culture," in *Leatherstocking and the Critics* ed. by Warren S. Walker (Chicago: Scott, Foresman and Company, 1965) 112
- (6) James Emmet Long *James Fenimore Cooper* (New York: A Frederick Ungar Book, 1990) 70
- (7) 拙論「Natty Bumppo と Hector: 人間と自然の新しい関係」大阪女学院短期大学紀要第29号(1999) 69-83
- (8) *The Last of the Mohicans* における Chingachgook, Uncas, Natty Bumppo と彼等の関係に関しては、拙論「Cora Munro の死の意味」大阪女学院短期大学紀要第24・25号(1995) 77-87、「Chingachgook と Magua—クーパーの神義論」大阪女学院短期大学紀要第27号(1997) 53-62、「Glenn's の彼方へ—Cooper の救い—」大阪女学院短期大学紀第24・25号(1995) 109-120で論じている。
- (9) 拙論「Natty Bumppo と Hector: 人間と自然の新しい関係」大阪女学院短期大学紀要第29号(1999) 69-83
- (10) Sydney E. Ahlstrom *A Religious History of the American People* (New Haven: Yale University Press, 1973) 435